

よみがえれ！
有明訴訟弁護団
(後藤富和)発行
092-894-1781
090-9602-0700

自民総裁候補に 公開質問状

よみがえれ！有明訴訟原告団・弁護団は、9月16日、5人の自民党総裁候補に対して、「有明海の再生に関する公開質問状」を送った。

質問状は、「本年6月27日、佐賀地方裁判所は、3年以内に諫早湾干拓潮受堤防排水門を5年間開けるように命じました。この判決については、有明海沿岸の佐賀県、福岡県、熊本県の各知事、各県議会が支持し開門を求めました。福田内閣はこれを不服として控訴しましたが、他方で、若林農水大臣(当時)は、開門調査にむけたアクセスを実施すると談話を発表しました。一方において開門に反対しているながら他方で開門アクセスを実施するというのは、政府として、開門をすべきと考えているのか、それとも開門をしない結論を導くためのアクセスを行う考えなのか、二枚舌政策といわざるを得ず、市民らを混乱させるに至りました。有明海で生活す

る漁業者、そして、諫早湾干拓農地に入植した農業者らが、不安から開放され、安心して漁業・農業を営んでいくために、有明海の再生は緊急の課題となっています。そこで、今後、さらなる九州有明の地域の発展のため、次期自民党総裁候補であられる先生がいかなるお考えをお持ちなのか、以下の質問についてご回答いただこう、お願い申し上げます。」とした上で、以下の点について回答を求めた。

【質問1】

諫早干拓潮受け堤防排水門の開放について、どのようなお考えをお持ちですか。以下の中からご回答下さい。

- ア 直ちに開放すべきである。
- イ アクセスの結論が出るまで水門は開放しない。
- ウ アクセスは不要で断固開門しない。
- エ その他

【質問2】

若林農水大臣(当時)が談話で発表したアクセスの実施について、どのようなお考えをお持ちですか。以下の中からご回答下さい。

- ア 本件は、法律上の環境アクセスには当たらないので、アクセスの実施は不要である。
- イ 一方において開門を否定しながら同じ農水省の担当部局がアクセスを実施するのはアクセスの公平性が保てないので、このような形でのアクセスは実施すべきではない。アクセスの実施主体や担当部局も含めてアクセスの実施方法を抜本的に見直すべきである。
- ウ 本件アクセスの実施には何ら問題はない。
- エ その他

回答の期限は9月18日、原告団・弁護団は、回答の内容を公表するとしている。

調整池のアオコから 高濃度毒素 諫早湾干拓 熊本保健科学大教授が確認

【2008年9月4日 熊本日日新聞】長崎県の国営諫早湾干拓事業の潮受け堤防内の調整池で、バクテリアのアオコから高濃度の毒素が発生していることが、熊本保健科学大(熊本市和泉町)の橋徹教授(53)＝海洋生態学Ⅱの調査で分かった。高橋教授は「アオコは高濃度の塩分に弱いため、堤防を開門して海水を調整池内に入

れることが浄化のカギとなる」と提言している。高橋教授は二〇〇六年秋から、調整池内を調査。ミクロキスティス・エルギノールサというアオコが八月から十二月ごろにかけ、調整池一帯で発生していることを確認した。このアオコは、青酸カリの数十倍の急性毒性を持ち、慢性的にも肝臓がなどを引き起こす毒素ミクロシチンを出す。昨年九月、調整池内の四地点で水と泥を採取して分析した結果、すべての水から世界保健機関(WHO)の飲料水基準濃度の一リットル中一マイクログラムを上回る八―五〇マイクログラムのミクロシチンを検出。また、アオコが発生していなかった今年三、四月の水からも〇・二マイクログラム前後が検出された。高橋教授は、底土に残留していたミクロシチンが溶けだしているとみている。高橋教授は「ミクロシチンは農作物や二枚貝にも蓄積するとの研究報告がある。耕作が始まった干拓地の農作物や湾内の貝類にも影響する可能性がある」と警告している。これに対して、九州農政局は「このアオコは琵琶湖などでも発生しており、農業用水に使用するのは支障ないと認識している」と話している。高橋教授の研究成果は、県立大で開かれる日本プラシトロン学会・日本ベントス学会合同大会で、五日に発表される。